**クルド語のナル表現と事態把握**

岡　智之（東京学芸大学）

1. **はじめに　－クルド語とは**

クルド人は、アラブ人、ペルシャ人と並ぶ中東地域の三大先住民族のひとつで、人口は2500万～3000万人、居住地域は、トルコ南東部、イラク北部、イラン西部、シリア北部など、国を持たない世界最大の少数民族と言われる。

クルド語は、インド＝ヨーロッパ語族イラン語派西イラン語群で、クルマンジー（トルコ東部、イラク北西部、シリアなど1500万人）、ソラニー（イラク北東部、イラン西部など600万人）、ザザ（トルコ東部ヴァン湖周辺400万人）などの方言がある。本稿では、トルコ、シリア、イラク西部地区などで使われるクルマンジー方言のナル表現と事態把握をとり上げる。後半は、旧約聖書創世記第1章のクルド語翻訳を見ながら、クルド語のナル表現について考察する。

1. **クルド語のナル表現**

まず、クルド語のナルに相当する動詞は、bûnで、同時にデアルも意味する。また、ヨクナル、デキルを意味するçêbûnがある。存在動詞は、hebûn > heye（三人称単数）、hene（複数）である。ナルの補語が取る格は、ゼロ格で、SVCの語順を持つ。ただし、クルド語は能格言語で、他動詞の過去形の場合、斜格＋目的語＋動詞（過去形）の語順というSOV型となる。

(1) Ez　　　　　 bûm 　　　　 mamoste.

主格一人称　　ナル-過去語幹一人称接辞　　先生（格なし）

　　　私は　　　　 　なった　　　　　　　 先生

ナル表現は、日本語のナル表現と一致するものやトルコ語のようにナル相当動詞でいう表現も多い。

・日本語のナル表現と一致するもの。

(2)「今年は、ぶどうがたくさんなりました」―朝鮮語やトルコ語では言わないが、「実がなる」をナル表現で言う。

　 Î sal tirî gelek bû.

 この　年　ブドウ　たくさん　なる過去語幹（三人称）

(3)「氷が解けて水になる」

Buz dihele av dibê.

 氷 溶ける・現在　水　ナル・現在形

(4)「掃除をして、（私の）部屋がきれいになった」

Dema ku min paqijî kir, odêya min ciwan bû.

 時　that 一人称斜格　掃除する、部屋　一斜　きれいに　なる・過去語幹

(5)「子どもたちが寝て、静かになった」

　　Dema ku zarok raketin, odê bêdeng bû.

 時　that 子ども　起きる・過去 部屋　なし音　ナル・過去

(6)「トマトが赤くなった」「信号が赤になった」

　　Tamates sor bû. / lambe sor bû.

 トマト　 赤　なった　 　信号　赤　なった

(7) 「大きくなったら、パイロットになりたい」

Dema ku ez mezin bûn, ez diwazim bibim pilot.

 時　　that 私　大きい　ナル過去、私　たい　ナル願望法現在　パイロット

　　私 大きくなった時、パイロットになりたい。

(8)（病人へ）「早く良くなってね」三人称命令形を使うことが可能。

Zu baş bibe.

 早く　よい　ナル三人称命令形

(9) 「世話にナル」「厄介にナル」

　　 Zahmet bû.

 面倒　ナッタ

(10) 「病気にナル」「不安にナル」

　　 nexweş bûn , endişedor bûn

 　 病気　ナル　 不安　　　ナル

・日本語ではナル表現ではないが、ナル表現を使うもの。

(11) 「来月、彼らの子どもが生まれる（なる）」―「生まれる」をナル表現でいう。

　　　Meha bê zarokê wan dê bibê.

 月　来る　子ども　彼ら斜格　未来　ナル願望法現在三人称

　 　来月　　彼らの　子どもが　なる

(12)（大学で）「（あなたは）明日も大学にいる？」　通常、存在動詞はhebûnだがこの場合はbûn

　Tu dê sibê jî zanîngehê bibê

二人称・主格　未来形　明日　も　大学・斜格　アル願望法現在二人称

(13)（「このアイス、食べても良い？」）「（食べては）いけません」「（食べても）いいです」

　　Dibe. / nabe.

 ナル現在形　ナル否定現在形

　　　　いい　　　いけない

(14) 「安心する」rihet bûn, 安心　ナル

・日本語のナル表現と（一部）一致するが、スル的の方が好まれるもの。

(15)「春になった／春がきた」　「春が来た」の方が好まれる。朝鮮語に近い。

Bihar hat. / Bihar bû.

 春　　来る・過去　春　ナル・過去

(16)「家族が急病になったので、帰国することになりました」

「急病になる」のみナル表現を使う。

Dema ku malbata me nişkeve nexweş bû , divê ez biçûm.

　 時　that 家族　 私達の　急に　 悪く　なった、なければならない　私　行く

私たちの家族が急に病気になった時、私は行かなければならない

(17) 「完成する」「成功する」「当選する」「混乱する」 \*「混乱する」のみナル表現

　　 Serketin / lêketin / şaş bûn、şaş kirin

 上に―入る 　～に―入る　混乱ナル　 混乱スル

成功する　／　当たる　／　混乱する　混乱させる

・日本語でナル表現だが、ナル的表現は使わないもの。

「新社屋がなる」「研究がなる」「赤ちゃんが歩けるようになった」「塵も積もれば山となる」「なるようになる」「なせばなる」「こちら、生ビールになります」「この本は三つの章からなる」「今日は市役所にいかなければならない」「顔を真っ赤にして怒る」「足を棒にして歩く」「なり（姿・形）」「道なり」「手なり」などはナル相当動詞では言わない。

**３．クルド語の事態把握**

　 クルド語は、インド＝ヨーロッパ語族であり、人称代名詞が義務的である（どの程度義務的かは調査の必要がある）。また動詞の人称変化がある。日本語の終助詞のようなものはない。授受動詞の補助動詞用法（～してくれる／あげる／もらう）はない。日本語と同じ事態把握もあるが、朝鮮語に近いものもあり、英語の事態把握と共通するものもあり、複雑である。

・日本語と同じ事態把握。

(18)「ここはどこですか？」

　　Ev der ku derê?

 この 場所　どこ？

(19) 「この薬を飲めば、気分が良くなるでしょう」

　Eger te ev derman vexwar, tu dê baş bibe.

 もし　2斜格　この　薬　飲む 2主　未来　よい　ナル

(20)「明日のパーティ、一緒に行かない？」「はい、ぜひ！」

　 　Tu naçiyî partiye sibê? / belê, belê.

 あなた　行かない　パーティ　明日　／　はい、はい。

・日本語と違う事態把握。ややスル的。朝鮮語に近い。

(21)（交番で）「私の財布を盗みました／私の財布が盗まれました」能動形を使うことが多い。

　　Cuzdanê min dizîn. / cuzdanê min hate dizîn.

 財布　　私の　盗んだ　／　財布　 私の　盗まれた

(22)「昨夜は家の近くで工事を始めて、眠れませんでした」

Duh evarî neziki mala me inşant destpêkir, ez raneketim.

 昨日　夜　 　近く　　家　私たちの　工事 　始めた　 私　眠らなかった

 (23)「やっと(私は)卒論のテーマを決めました」

　　Min biryara mijara tezê xwe da.

 私・斜格　決定　論文　　　テーマ　再帰代　与える・過去

・スル的事態把握。英語に近い。

(24)**「**早く来て！」「いま行く／来るよ」英語と同じ。

　 　Zu were! / niha têm.

 　 早く　来い　／　今　　　来る。

(25) 国境の長いトンネルを抜けると雪国だった。（川端康成『雪国』冒頭）

Trena ku tûnela direj de derketî, kete nava welatê berfê.

電車thatトンネル　長い　 から 出た　　　入った　中　　　国　　　雪

長いトンネルから出た電車は、雪国の中に入った。

Dema ku trein tûnela direj derbas bû, bû welatê berfê.

時　that 列車　トンネル　長い　過ぎた、　　　なった　国　雪

列車が長いトンネルを過ぎたとき、雪国になった。

　「列車」という主語を立てなければならないなど、英語の事態把握に近い。

**４．旧約聖書創世記第1章クルド語翻訳を題材としたクルド語のナル表現**

Afirandina Erd û Ezmên

　　　　　　　　　　　　　　　　　　創造　　　　地　と　天　＞　天地の創造

　　　　　　　　　　　　　　　　Destpêkirin1

 初めの創造１

１．Di destpêk de Xwedê erd û ezman afirandin.

 初め　　　に　神(斜格)　地　と　天　　　創造した

＞初めに　神は天地を創造した。

２．Di we demê de erd û virt û vala bû li ser erdê tiştek nebû; bi tenê taristanî hebû.

 その　とき　に 土　と　空虚　と　あった　で　上　土　　もの　なかった　ただ　　闇　　　　あった。

　　　＞　そのとき　大地の上に　土と空虚があった、なにもなく、ただ闇だけがあった。

3. Hingê Xwedê got:< Bila ronahî **çêbe**.> Û di cih de ronahî **çêbû**. < çêbûn よくなる、出来る、なる

 そのとき　神　　言った。「～ように　光　なれ」　そして　そこ　に　光　なった

 ＞　そのとき　神は言った。「光あれ」　そして　そこに　光が　できた

★　「神は光あれ」というと「光ができた」　「あれ」はナル動詞çêbûnの願望形

4. Hingê Xwedê dît ku ronahî qenc e

 そのとき　神　見た　～と　光　いい

＞　そのとき　神は　光を見てよしとした

5 Wî ronahî ji taristaniyê veqetand û navê ronahî <roj> û yê taristaniyê <şev> danî.

 　彼　光　から　闇　　　　分ける　　　　名前　光　　「昼」と　　　闇　　　「夜」　与えた

　　＞　神は光を闇から分け、光を「昼」、闇を「夜」と名づけた。

**Bû** êvar û **bû** sibeh, ev roja yekê bû.

なった　夕方　と　なった　朝、これ　日　１　であった

＞夕方となった、朝となった、これが第一日だった。

６．　Hingê Xwedê got:< Bila di navbera avan de qubeyek **çêbe** da ku wan ji hev veqetîne>

 　そのとき　神　　言った。「ように　間に　　水　　　　空間　　なれ　　彼ら　　お互いに　分ける」

　　　＞その時神は言った。「水のあいだに空間ができて、お互いに分かれるように」

7．　Xwedê qubek çêkir û ava di bin qubê, ji ava li ser qubê veqetand. Û ev weha **çebû.**

 神　　　大空　作った　水　　下　　大空　から　水　上　大空　分けた　そして　これ　このように　なった

＞　神は大空を作り、大空の下の水を　大空の上の水から分けた。するとそのようになった。

8. 　Xwedê navê qubê ezman danî. **Bû** êvar û **bû** sibeh, ev roja diduyan bû.

 神　　　名前　空　　天　　あげた。なった　夕方　と　なった　朝、これ　日　２　であった。

　　＞神は空に天という名前を付けた。夕方となり、朝となった。これが第2日目だった。

9. Hingê Xwedê got:< Bila ava di bin ezmên de li cihekî bicive û axa zuwa **bê** dîtin.> Û ev weha **çêbû** そそのとき　神　言った。「ように　水　に　下　　天　　に　一つの所　集まる　地　乾いた　なれ　見える」これ　このように　なった　＞その時神は言った「点の下の水は一つの所に集まり、乾いた地が見えるようになれ」するとそのようになった。

10. Xwedê navê axa zuwa <erd> û navê ava civiyayî <derya> danî. Û Xwdê dît ku ev qenc e.

 　 神　　　名前　地　乾いた　大地　　名前　水　集まる　「海」　与えた。　神　見た　これ　いい

　　＞神は乾いた地を「大地」と名付け、集まった水を「海」と名付けた。神はこれをみてよしとした。

11. Wî got <Bila erd giya û şînayiyê bide û bila darên ku li gor cûreyên xwe fêkî didin, derxe.> 彼言った「 ように　地　　草　　　　青い　　与えよ　　ように　木　　that　に従って　種類　自身　果物　与える　もたらせ。

＞神は言った。「地は青草を与えよ、そして　その種類に応じて果物を与える木をもたらせ」

　　Û ev weha **çebû.**

 そして　これ　このように　なった

＞　するとそのようになった。

12. Erdê giyayên şîn û darên ku li gor cûreyên xwe fêkî didin, deranîn.

 地　　　草　　　青い　　木　　that　　に従って　種類　再帰代　果物　与える　もたらした

　　＞地は、青草とそれそれの種類に従って果物を与える木をもたらした。

 Û Xwdê dît ku ev qenc e.

>神はこれをみてよしとした。

13. Bû êvar û **bû** sibeh, ev roja sisiyan bû.

 >夕方となり、朝となった。これが第3日目だった。

14.15． Hingê Xwedê got:< Bila li ezmên ronahî **çêbin** û bila rojê ji şevê veqetînin, ronahîyê bidin erdê

 　　 そのとき　神　　　言った「ように　に　空　光　　できる　ように　昼　から　夜　分かれる　　 光　　照らす　地

û ji bo roj, demsal û salan **bibin** nîşan.> Û ev weha çêbû.

ために　昼　季節　　　　年　　なる　シンボル　これ　このように　なった

　＞その時神は言った。「空に光ができるように、昼が夜から分かれるように。光は地を照らし、昼と季節と年のためのシンボルとなるだろう」するとそのようになった。

16. Xwedê du ranahiyên mezin çêkirin. Ya mezin ji bo rojê û ya biçûk ji bo şevê.

 　 神　　二つ　光　　　大きい　作った　もの　大きい ため　昼　もの　小さいため　夜

　　＞神は二つの大きい光を作った。大きいのは昼のため、小さいのは夜のため。

17. 18. Wî stêr jî çêkirin û ew li ezmên bi cih kirin da ku ronahiyê bidin erdê, serwerîyê li şevê û li rojê

 　 彼　星　も作った　それら　で地　位置づけた　　 that 　光　　　照らす　地　 支配 に　 夜　　に 昼

bikin û ronahiyê ji taristaniyê veqetînin

　する　　光　　　から 　闇　　　分かれる

　　＞神は星も作った。それらを天に位置づけた。光が地を照らし、支配が夜と昼におよび、光が闇から分かれるように。

Xwedê dît ku ev qenc e. >神はこれをみてよしとした。

19. **Bû** êvar û **bû** sibeh, ev roja çaran bû. >夕方となり、朝となった。これが第4日目だった。

20. Hingê Xwedê got:< Bila av bi masiyan tije **bîbe** û jor, li ezmên, teyr bifirin.>

 そのとき　神　　言った＜命令法　水　魚　　満ちる なれ　上　　空に　　鳥　　飛べ>

 >その時神は言った。「水は魚で満ちよ。上に空に鳥は飛べ」

21. Wî hûtên mezin ên deryayê û hemû afirînên jîndar ên ku av bi wan tije ye û her

 彼　　獣　　　大きい　の　海の　と すべての　作られた　生き物 の that 水で　それら　満ちる　と　すべて

Cûreyên teyran afirandin.　 Xwedê dît ku ev qenc e.

　　種類　　鳥　　創造した

　　＞神は海の大きい鯨とすべての水がそれらで満ちるすべての種類の生き物とすべての種類の鳥を創造した。神はこれをみてよしとした。

22. Wî ew hemû bereket kirin û got:< Berdar bin zêde **bibin** û ava derayan dagirin û bila

 彼　それらすべて　祝福する　　と　言った　増えよ　　多く　なれ　と　水　　海の　　　満たせ　と　命令

 teyr jî zêde **bibin.**>

　　鳥　も　多く　なれ

　＞神は彼らすべてを祝福して言った。「増えよ、増せよ。海の水を満たせ。鳥も増えよ」

23. **Bû** êvar û **bû** sibeh, ev roja pencan bû.

 >夕方となり、朝となった。これが第5日目だった。

24. Hingê Xwedê got:< Bila erd her cûreyên afirînên jîndar derxe: heywanên kedî,

 そのとき　神は　言った。「命令　地　各　種類の　　　生き物　　　　　もたらせ：動物　　　家の

heywanên kûvî û heywanên ku li ser axê dişêlîn.> Û ev weha **çêbû**.

動物　　　野生　　　動物　　　that で　上　地　はう

その時神は言った。「地は、家畜、野獣、地を這う動物など各種の生き物をもたらせ。」するとそうなった。

25. Xwedê heywanên kûvî, heywanên kedî û heywanên ku li ser axê dişêlîn çêkirin.

 神　　　　　　　　野獣　　　　　　家畜　　　　　　　 動物　　　　　で　上　地　　這う　　作った

 Û Xwedê dît ku ev qenc e.

　＞神は野獣、家畜、地を這う動物を作った。そしてそれを見てよしとした。

26. Îcar Xwedê got:< Niha em di sûretê xwe de, wek ku mîna me be, mirovan çêkin. Bila ew **bibin**

 こんど　神　言った「今　我々　に　形　自身　　　 ように　 私達　である　人　作った　命令　彼ら　なる

 serwerê hemû erdê û serwerê masiyen avê, teyrên ezmên heywanên kedî û hemû heywanên

　主人　　すべて　地　と　主人　　 　魚　 　水　　鳥　　　空　　　　　　家畜　　　　と　すべて　動物

 ku li ser rûyê erdê ne.>

　　で　上　表面　地

* すると神は言った。「今度は我々の形に我々に似るように人をつくろう。彼らにすべての地の主人、海の魚、空の鳥、家畜とすべての地上の動物の主人にならせよう。」

27. Xwedê mirov di sûretê xwe de afirand, wî ew di sûretê Xwedê de afirandin, wî ew

 神　　　人　　に　　形　　　自身　　創造した　 彼　彼　に　形　　　神　　　　　　創造した

nêr û　mê afirandin.

　女　　男　　　創造した

＞　神は人を　自身の形に創造した、神の形に想像した、女と男に創造した。

　Xwedê mirov ji axa erdê çêkîr û bîhna jiyanê pif kir pozê wî. Û mirov **bû** cane jîndar.

 神　　　　人　から　地　　作った　息　　生の　吹き込む　鼻　彼　　人　　なった　魂　生きた

　＞神は人を土から作った。そして彼の鼻に息を吹き込んだ。すると人は生きた魂となった。

28. Xwedê ew bereket kirin û ji wan re got:< Berdar bin zêde **bibin**. Erdê tije bikin û wê

 神　　　彼ら　　祝福した　　　　　彼らに　　言った。「増えよ、　多く　なれ　　 地に　　満ちよ それ

bixin bin destê xwe. **Bibin** serwerê masiyên deryayê, teyrên ezmên û hemû heywanên ku li ser

置く　下　　手　　自身　　なれ　　 主人　　　魚　　　　海の　　　鳥　　空の　　　すべての　動物　　に　上

rûyê erdê ne.>

表面　地　　　＞神は彼らを祝福し彼らに言った。「増やせよ、増えよ。地に満ちよ。地を支配せよ。海の魚、空の鳥、すべての地上の動物の主人になれ。」

29. Piştre Xwedê got:< Ez hemû şînayiyên li ser erdê û her dara fêkî didim we.

 その後　神　　言った「私　すべて　緑　　で　上　地　 　各　木　果実　与えた　君たちに

Ev dê ji we re **bibin** xwarîn.

　　これ　未来　君たちに　なる　食べ物

　　＞その後神は言った。「私はすべての地上の草と果実の木を君たちに与えた。それは君たちの食べ物となるだろう。

 30. Û ez giyayê sîn didim heywanên erdê û hemû teyrên ezmên, da ku ji wan re **bibe** xwarîn.

　　　私　　草　青い　与えた　動物　　地の　　すべての　鳥　　空の　　　　彼らに　なる　　食べ物

 Û ev weha çêbû.

 ＞それから私は地のすべての動物とすべての空の鳥に、青草を与えた。それらは彼らの食べ物となるだろう。するとそのようになった。

31. Xwedê hemu tişten ku çêkiribûn dîtin û bi rastî ew gelek qenc bûn. Bû êvar û bû sibeh, ev roja

 　神　　すべて　もの　that 作られた　見た 　本当に　それら　とても　よかった。

şeşan bû.

＞神はその作られたすべてのものを見て、本当によかった。夕方になり、朝になった。これが6日目である。

1. **おわりに**

クルド語は、インド・ヨーロッパ語族であるが、地理的位置からも、ちょうどアジア言語とヨーロッパ言語の中間的な位置を持っている興味深い言語である。世界の言語は、英語と日本語のように、スル型、ナル型と完全に分けることができない。同じ言語の中で、スル型に偏る場合も、ナル型になる場合もあるのである。クルド語の事例はそのことをはっきり示しているものである。

まだ解決されない一つの疑問として、クルド語のナル表現は、「である」と同じ表現であるという点がある。古代日本語やトルコ語の例から考えると、存在動詞（「ある」）とナルが同じ形式である、ということが想定されるが、ナル表現が、存在動詞とは違う形式であり、「である」形式と同一である（モンゴル語と共通）点は興味深い点であり、この点がどういう事態把握を表すのか考察の余地がある。

謝辞：本稿でのクルド語の翻訳はすべて、チョーラク・ワッカス氏（日本クルド文化協会：トルコ出身）によるものである。ご協力に感謝する。

**参考文献**

中島喜与志『クルド人とクルディスタン』南方新社、2001

参考：クルド語の話されている地域　<http://ikeuchisatoshi.com>

